

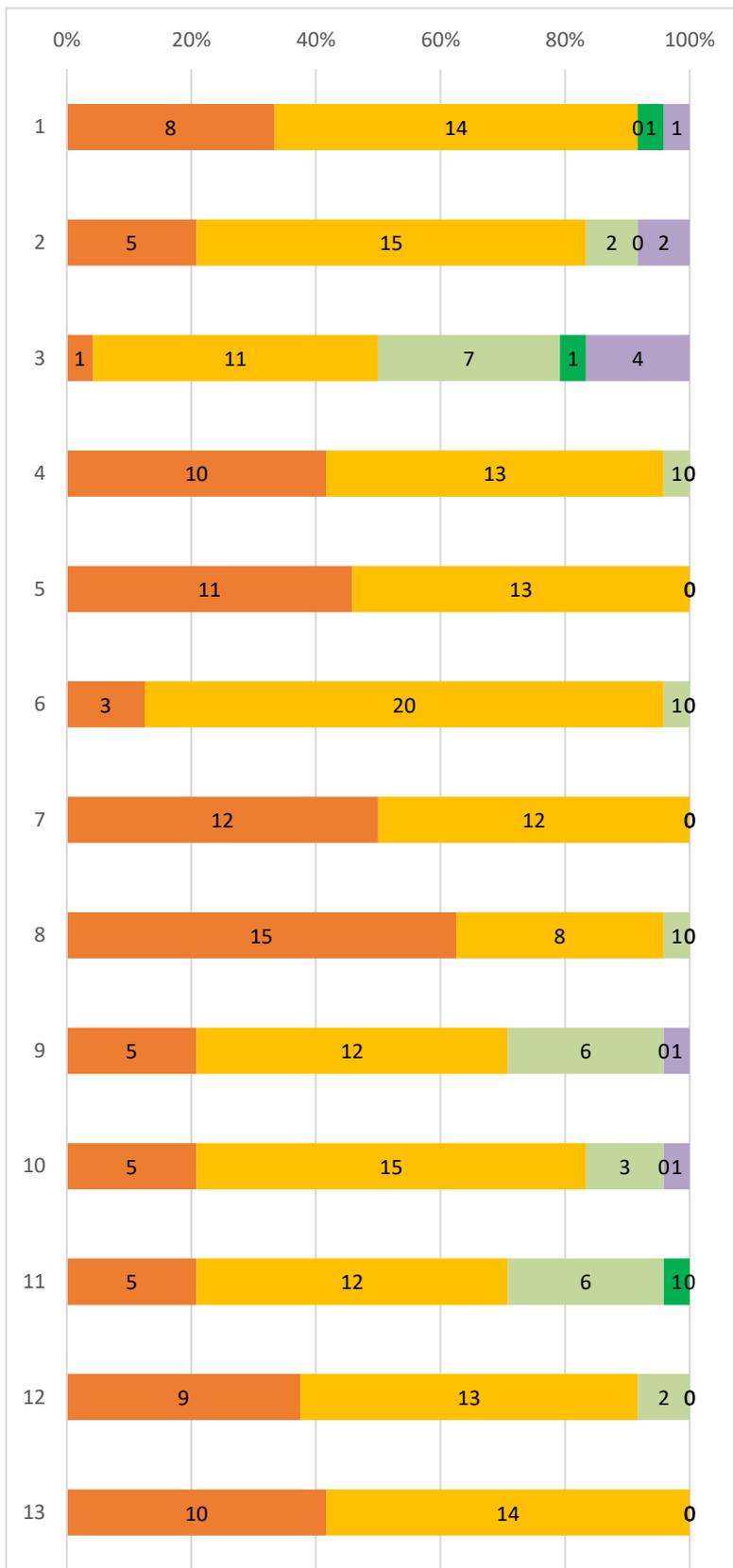
2020年度 自己評価に関するアンケート集計結果（せいじ園）

凡例

■ 5:よくできている ■ 4:だいたいできている ■ 3:あまりできていない ■ 2:できていない ■ 1:設問の内容が自分に該当しない

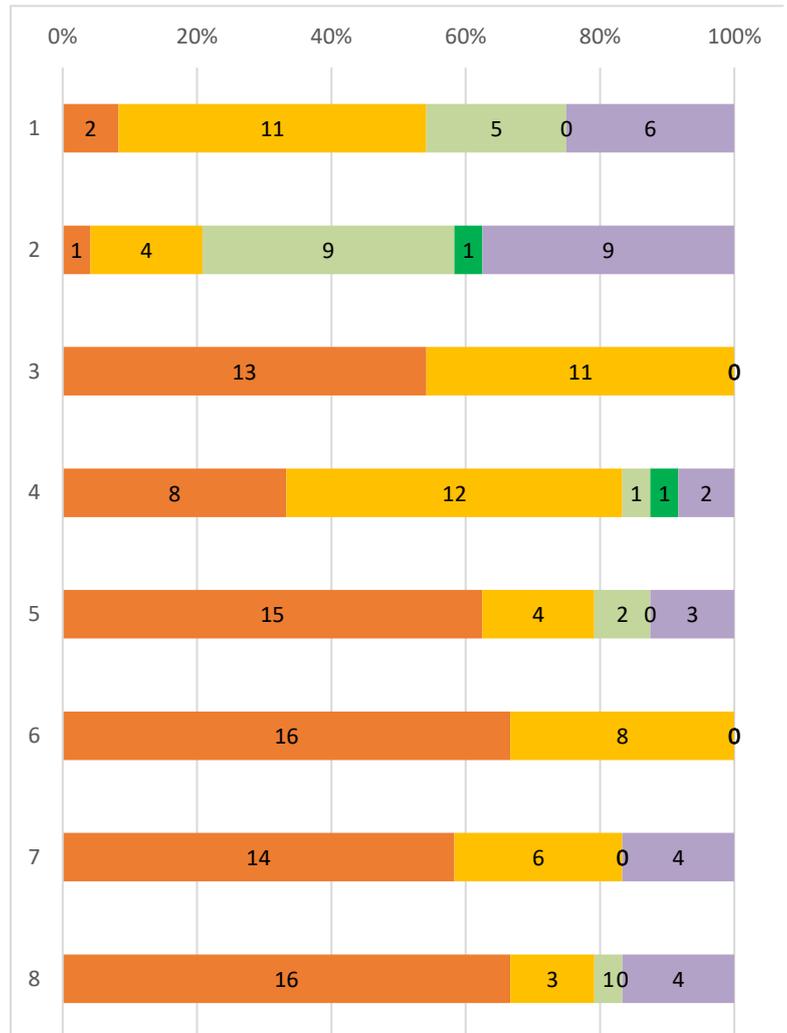
I 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の発育や発達の状態について理解できている。
③子ども一人一人の家庭環境や成育歴などを理解できている。
④子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
⑤それぞれの子どものありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている。
⑥禁止、命令、せかす言葉や子どもの自信を失わせるような言葉や態度を避けている。
⑦子どもをほめたり励ましたり子ども自身が目当てを持てるような言葉がけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供している。
⑩子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑪言葉にならないサインをも見逃さず子どもの基本的欲求が満たされるよう配慮できている。
⑫保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。
⑬どの子どもにも感情のむらなく平等にかかわるよう心掛けている。



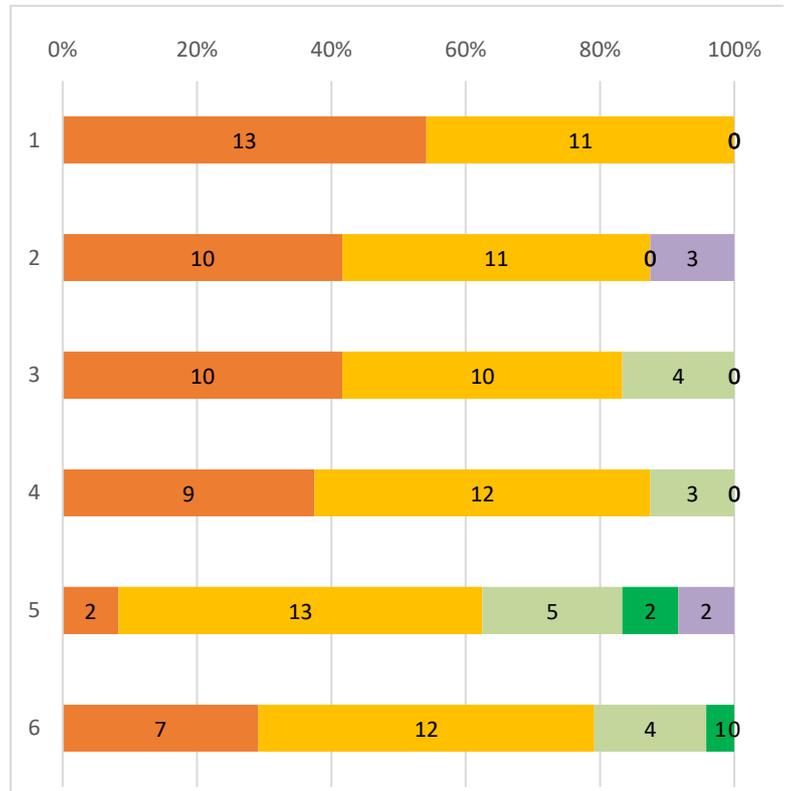
II 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、保護者と直接話したり、電話、連絡帳などを使ったりして十分に伝えられている。
②各家庭での養育方針などについて保護者と話し合っている
③ていねいな言葉遣いを心掛け、友だち同士のよう態度で接していない。
④保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。
⑤保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をしている。
⑥教職員や園の批判を軽はずみにしたり他の園児や家庭の個人情報了他言したりしていない。
⑦家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑧保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。



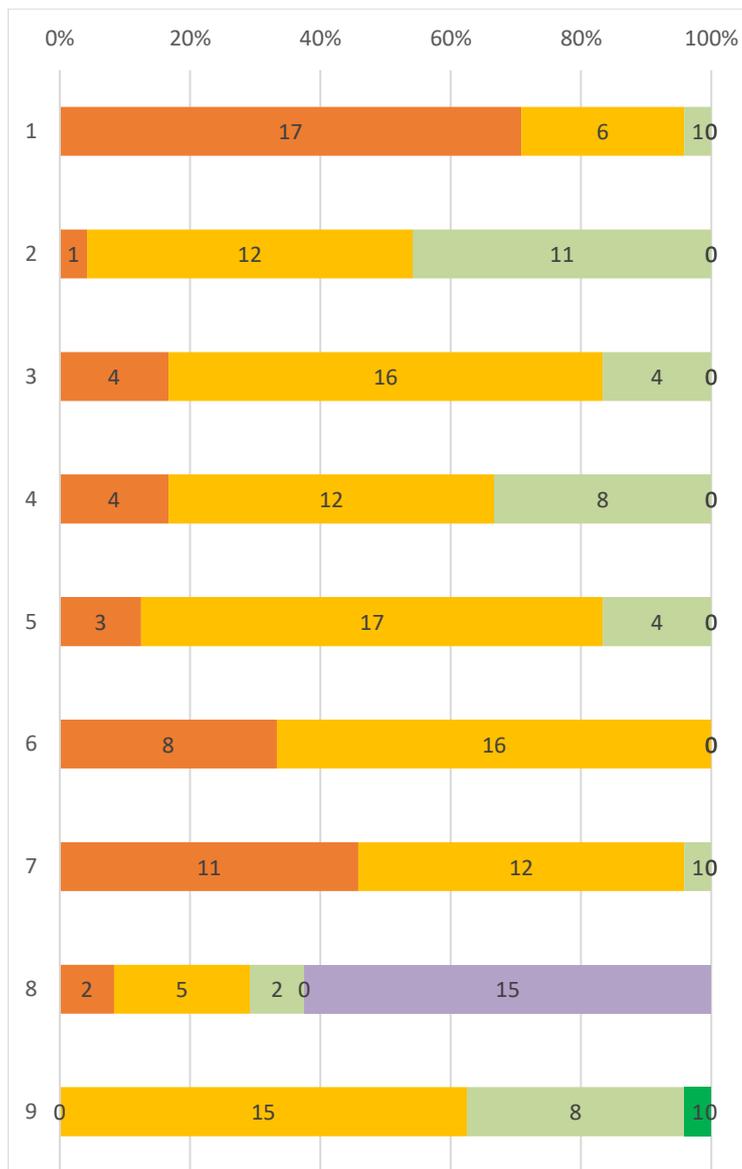
III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意と忍耐をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている。
④上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。
⑤職場環境の改善に必要と思うことがあれば発言や提案をしている。
⑥色々な考えを受け入れ、多方面から物事を見るようにしている。



IV 能力向上の努力に関して

①保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。
②保育者としての専門知識や技能を十分に備えていると思う。
③園内の遊具や教材について、使用法や危険性について熟知している。
④常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。
⑤子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力している。
⑥職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑦服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け安全性にも気をつけている。
⑧研修会や研究会には事前にその内容を確認し、自己課題をもって参加している。
⑨回覧される月刊「キリスト教保育」や保育の参考文献をよく読み、自身の保育への参考を得るよう心掛けている。



【自己評価アンケート園長所見】

アンケートを実施した対象人数は、みらい園教職員30名、せいじ園教職員24名であり、全員が回答しました。あくまでも「自己評価」のアンケートであり、各教職員が各項目について自分自身をどのように評価するかという数値の集計です。このアンケート結果を公開するとともに、園内においても共有し、話し合いの場を設けるなどして、保育の改善に役立ててまいります。

以下、簡略ながら項目ごとに園長の所見を述べます。

I 子どもの保育に関して

両園ともおおむね良好であると考えられます。設問の③で肯定的回答と消極的回答が相半ばしているのは、立場上子どもの個人情報に触れることが少ない教職員もいるためと考えられます。

II 保護者への対応について

両園とも保護者との情報交換に不足を感じている教職員が少なからずいることがうかがえます（設問①②）。これも「I」と同様、教職員の立場の違いによる要因もあると思われませんが、留意して改善を図りたいと思います。

III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

両園とも設問の⑤「発言や提言をしている」について消極的な回答が見られます。昨年も同様の傾向でした。さらなる発言や提言の場の創設が課題であると感じます。

IV 能力向上の努力に関して

おおむね良好と考えますが、とくに新たに入職した教職員に慎重な回答が見られます。適切な助言や研修の場を工夫してまいります。

なお⑧「研修会や研究会」に関する設問で、両園とも「該当しない」の回答が多いのは、新型コロナの影響で多くの研究会等が中止となったためです。